

地元の皆様には、平素より当事業所の操業に対し、ご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
昨冬の「2022年冬号」に続き、「2023年夏号」をお届けしますので、ご高覧頂ければ幸いです。



## 【トピックス1：アンモニアサプライチェーン構築への取組み】

2月18日、西村康稔経済産業大臣が徳山事業所を視察されました。出光興産・東ソー(株)・(株)トクヤマ・日本ゼオン(株)の4社で協力し、2030年までに周南コンビナートにおいて年間100万トン超のカーボンフリーアンモニア供給体制を確立することを目指して取り組みを進めており、出光徳山事業所の既設設備をアンモニア輸入・供給拠点として活用・整備することを検討しています。全国各地にて、水素・アンモニアの導入促進に関心が高まっている中、地域の取組みが先行している拠点として、西村大臣が本予定地を訪れ進捗状況を確認されました。

また、5月9日には藤井周南市長と上記コンビナート企業4社のTOP、そして8月17日には村岡県知事も来所され、供給構想と各企業の利用への準備状況について視察されました。



大浦地区ご視察の様子（左：西村経産大臣 中：藤井周南市長 右：村岡県知事）

出光徳山  
かわら版

2023年  
夏号

【発行元】

出光興産(株)

徳山事業所



## 【トピックス2：事業所見学受入】

6月8日、周南市内の秋月小学校5年生52名（+引率先生3名）を迎え、見学会を実施しました。この見学会は地元の企業を訪ね、暮らしを支える製品を生み出す喜びや苦勞に触れることを通して、自分たちが生活する社会への関心を高めるという目的で、社会科見学として、出光徳山に依頼があったものです。

また、8月2日には商工会議所が主催する産業観光ツアーの「夏休み親子見学会」が開催され出光徳山も見学を受け入れました。周南・下松・光市からの親子10組20名が参加されました。いずれの見学会も「石油・地球の環境について考えてみよう」をテーマにSDG'sやカーボンニュートラルへの取組みも、解りやすくご説明した後、大容量泡放射システムやバイオマス発電所等、構内を大型バスでご案内しました。

コロナ前と同様の工場見学を行えることに、実施した我々もやりがいを感じることができました。



大容量泡放射システムの見学（秋月小）



バイオマス発電所の見学（産業観光ツアー）

### 【トピックス 3 : 事業所内に寄付型自販機設置】

7月1日から徳山事業所内の自販機32台を寄付型自販機へ移行し、事業所食堂内の自動販売機前にて、寄付型自販機設置による社会福祉貢献活動のセレモニーを行いました。寄付先である山口被害者支援センターおよび周南市共同募金委員会から感謝状を受領しました。私たちは今後も様々な事業活動や地域との連携活動などを通じて、人々の暮らしを支える責任と未来の地球環境を守る責任をしっかりと果たしていきます。



写真左から

周南警察署 久保署長

周南市共同募金委員会 佐原会長

出光徳山事業所 三品所長

山口被害者支援センター 鶴理事長

出光徳山事業所 福島副所長

### 【トピックス 4 : 徳山夏祭りでミコシ競演に参加】

7月22日、5年ぶりに開催されたミコシの練り歩きに参加し、出光グループ総勢160名でワッショイ！ワッショイ！の掛け声で街中を練り歩きました。演舞会場では、迫力あるミコシと太鼓・取巻きの踊りで、会場と一体となり盛り上がりました。地域の皆様への感謝と出光グループの元気の良さをお伝えすることができました。演舞の審査結果は、周南市議会議長賞（12グループ中2位）でした。



### 【トピックス 5 : みらいを奏でる音楽会 リアルで開催】

7月29日「みらいを奏でる音楽会」を出光の文化貢献活動の一環として開催しました。過去3年間、コロナ禍によりオンラインでのコンサートとなっていましたが、4年ぶりにリアルコンサートとして復活し、周南市文化会館で開催しました。

プロのアーティスト（奥田弦さんと東京シークレット・ストリングス）のセンス抜群の演奏に加え、「あなたも作曲家コーナー」や、来場者が拍手で演奏に参加するプログラムなどで、観客の皆様も楽しんでいただけたと思います。



奥田弦さんと東京シークレット・ストリングスの演奏の様子

### 【トピックス 6 : 構内超小型EVの電気等をカーボンオフセット】

徳山事業所の電気自動車4台の充電用電気を作る際に発生するCO<sub>2</sub>と、マイクロバスの走行により排出するCO<sub>2</sub>の一部(15-20%位)を、周南・大島干潟のブルーカーボンによりオフセットしました。※ブルーカーボンとは、アマモのような海の生物によって、吸収される「炭素」のこと。オフセットとは「炭素クレジット」を購入することにより、排出したCO<sub>2</sub>の埋め合わせを行うこと。

「炭素クレジット」はCO<sub>2</sub>削減の取り組み活性化・地球環境の持続可能性の向上に使用されます。

このEVの充電用電気を作る際に発生するCO<sub>2</sub>は周南・大島干潟のブルーカーボンでオフセットしています

